

質問

不妊治療中のサポートを充実し、制度の周知をもっと図ってほしい

答え

不妊治療に関する助成制度については、市が実施する一般不妊治療費への助成と、愛知県が実施する特定不妊治療費への助成制度があります。

本市において、平成19年度から一般不妊治療（性ホルモン療法、ホルモン療法、人工授精など）への不妊治療費助成事業と不妊相談を実施しており、治療費の助成と、合わせて助成申請時に不妊相談として保健師が不妊治療中の悩みなどをお聞きしています。

現在、市ホームページや健康ガイド、広報がまごおり、子育て情報誌「にっこに」などでお知らせをするほか、医療機関にポスター・チラシを配布し、院内に掲示または設置について依頼をしておりますが、再度、医療機関へも働きかけをして治療中に情報を知っていただくよう、さらなる周知を徹底したいと思っています。

また、助成金以外にも治療をしながら仕事を続けられるためには、取りやすい休暇、勤務時間・勤務場所の配慮などさまざまな支援が必要だと考えられます。現在は、厚生労働省が労働条件や労働問題に関する相談を委託して行う「労働条件相談ほっとライン（0120-811-610）」があります。ほかにも、職場の理解を促し、働きながら不妊治療を受けられるための不妊治療連絡カードがあります。ぜひご活用ください。

一般不妊治療は、5万円を上限に年齢・回数に制限なく助成を受けられます。

質問

形原地区の避難所を拡充した方がよいのではないかと

答え

形原地区の避難所について、ご提案ありがとうございます。昨年7月と9月に3つの台風が接近し、地域避難

備考

同様に三谷小学校も地域避難場所として開設します。



有事に備えて非常用持ち出し袋を用意しておきましょう。

場所として、かたはら児童館を開設いたしました。避難者が多く集まり、かたはら児童館だけでは手狭になったため、急遽、形原保育園を開設し、避難者の受け入れを行いました。昨年の経験を教訓として、市防災会議における議論を経て、今後は形原中学校も地域避難場所として開設します。詳しくは、広報がまごおり6月号（P4）をご覧ください。

今後、台風の接近などにより、「避難準備・高齢者等避難開始」警戒レベル3を発令し、地域避難場所を開設する際には、安心ひろめる、防災行政無線（屋外スピーカー）などで伝達します。

その他の広聴システム

「市長への手紙」の期間以外にも、市へ意見や質問などを伝えられます。



市民の声投書箱 市役所1階に設置した専用投函箱に投書を入れることができます。



お問い合わせメール 市ホームページお問い合わせフォームから内容を投稿することができます。

今年度 市長への手紙 内訳

